

県外派遣報告書

審判員名	小柳 幸子	所属	ミニ連
大会名	関東高等学校バスケットボール新人大会		
期 間	平成27年2月6日(金)～8日(日)		
会 場	ALSOK ぐんまアリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
2月6日(金)	審判会議	グレースイン前橋	
2月7日(土)	男女1・2回戦	ALSOKぐんまアリーナ	
2月8日(日)	準決勝・決勝	ALSOKぐんまアリーナ	
会議 講義 内容			
<p>◇関東審判長 安西 郷史 氏より 大会を成功に終わらせる為に招集された審判員であり、各都県の気持ち・期待・思いが託されて、今大会に派遣されている。関東は恵まれた環境である。与えられたものを無難にこなすのではなく、積極的にトライして欲しいと、審判会議でのご挨拶を頂きました。また、大会2日目には「よりよい判定のために」と言うテーマで、レクチャーを頂きました。技術を理解し、様々なケースに対応できる準備が必要である事、その為に良い位置取りでスペースを捉える努力をし続ける事の重要性をお話頂きました。</p> <p>講義【大会に臨むに当たって確認すべきこと】</p> <p>◇指名審判員 谷古宇 孝 氏(東京) ルール・マニュアルを正しく理解して臨んで欲しい。全ての情報を基に判断し、適切に処置をする。マニュアルは、よりよいレフェリングの道具であり活かすもの。ゲームをコントロールする為に、技術・戦術・心理を理解し、気付く事が大事である。選手は毎日練習を積み重ねて大会に臨む。審判はどのように準備をして臨むのか。トレーニングも必要だが、レフリーを見る事も大事である。どこかで自分のレフリーを見つめ直す事が重要である。頑張っていけば、必ず結果に繋がるので、努力して欲しい。コートの外での立ち居振る舞いや、様々な所に気配りをし、日常から身につけていって欲しい。</p> <p>◇指名審判員 吉田 憲生 氏(埼玉) 審判に対しての思いがどこまであるのか。努力した事を苦勞と思うかどうかは、個人の思いによる。どのような思いでコートに立つのか。今大会に派遣された事も、経験を上げる為に必要な道である。心構えを持って臨む事は必要だが、過緊張にも繋がるので、セルフコントロールも必要である。突発的な事へも対応できる準備も必要。仲間がいる事の強みを持って、積極的に挑戦して欲しい。</p>			

実技

担当試合	期 日	2月7日(土)	女子	2回戦
	対戦カード	東京成徳(東京) VS	市立前橋(群馬)	主審
	相手審判	大川 尚 氏(千葉)		
ミーティング内容		主任 上杉 侑里子 氏(東京)		
<p>1試合を通して、取り上げなくても良かったものが2つあった。エリア3で、トレイルが追うべきケースと、リードが早く受けた方が良いケースを早く判断し、受け渡しをスムーズにできると良い。スクリーンに対してのディフェンス、特にユーザーに対してのディフェンスの手の使い方の基準を示せると良かったとの反省を頂いた。トレイルでの受け渡しのタイミングを、もう一度整理したい。スクリーンに対してのディフェンスについては、位置取りが悪く2対2のスペースを捉える事ができず、判定できなかった時があった。プレイヤーの作るスペースを予測しながら、より良いスペースを捉え、判定に繋げて行きたい。</p>				
全体の感想				
<p>今大会では2回戦の主審と言う割当を頂きましたが、チームの戦術に対しての対応が遅れ、判定すべき時に確認ができず、逆に取り上げるべきものでは無いもので、流れを止めてしまう事があった。理解の幅を広め、予測や準備が早くできるよう、主審としてもきちんとゲームコントロールができるよう、沢山の試合を見たり経験をしながら、レベルアップしていきたいと思ます。</p> <p>今大会、準決勝は男女で4コート同時に、決勝は男女2コート同時に行われました。見どころが多くある試合ばかりで、会場は4コート全て盛り上がっていました。群馬県の皆様におきましては、初めての試みと言う事もあり、大会準備もご苦労があったかと思ます。また、大会前から配車等につきましても、大変ご配慮を頂き有り難うございました。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。</p> <p>今回もこのような貴重な経験をさせて頂き、埼玉県協会の皆様にも感謝申し上げます。また、今大会でAAを引退されます平先生と安富先生と大会をご一緒させて頂く事ができ、更に貴重な経験をさせて頂きました。今大会の経験を、また貢献できるよう努力していきたいと思ます。</p> <p>今大会でお世話になりました皆様、誠にありがとうございました。</p>				